

テーマ：毎月勤労統計（2010年8月）  
 ～特別給与の押し下げにより前年と同水準に～

発表日：2010年10月4日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 岩田 陽之助  
 TEL：03-5221-4525  
 （単位：％）

		現金給与総額		常用雇用者数			総労働時間	総労働時間	
			所定内		一般	パート		所定内	所定外
08	9月	▲ 0.5	▲ 0.1	1.3	0.9	2.8	0.0	▲ 0.1	▲ 1.7
	10月	▲ 0.5	▲ 0.2	1.2	0.9	2.5	▲ 0.2	0.2	▲ 3.4
	11月	▲ 1.3	▲ 0.6	0.9	0.6	2.5	▲ 4.7	▲ 4.6	▲ 6.0
	12月	▲ 1.5	▲ 0.6	1.0	0.3	2.9	▲ 2.4	▲ 1.7	▲ 10.3
09	1月	▲ 2.7	▲ 0.9	0.9	0.0	3.3	▲ 1.3	▲ 0.2	▲ 14.4
	2月	▲ 2.4	▲ 1.0	0.5	0.0	2.3	▲ 5.4	▲ 4.2	▲ 21.7
	3月	▲ 3.9	▲ 1.4	0.5	▲ 1.0	4.5	▲ 4.5	▲ 3.0	▲ 22.7
	4月	▲ 2.7	▲ 1.3	0.3	▲ 0.8	3.6	▲ 2.7	▲ 1.4	▲ 18.9
	5月	▲ 2.5	▲ 1.6	▲ 0.1	▲ 1.2	2.7	▲ 5.8	▲ 4.8	▲ 18.4
	6月	▲ 7.0	▲ 0.9	0.0	▲ 1.1	2.4	▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 17.6
	7月	▲ 5.6	▲ 1.4	▲ 0.1	▲ 1.3	2.6	▲ 2.3	▲ 1.3	▲ 16.4
	8月	▲ 2.7	▲ 1.2	▲ 0.1	▲ 1.2	2.2	▲ 1.5	▲ 0.5	▲ 14.2
	9月	▲ 1.8	▲ 1.3	▲ 0.1	▲ 0.9	2.1	▲ 2.7	▲ 1.7	▲ 14.1
	10月	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 0.1	▲ 1.0	2.1	▲ 4.2	▲ 3.8	▲ 11.2
	11月	▲ 2.4	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 1.2	2.2	▲ 1.3	▲ 0.7	▲ 8.5
	12月	▲ 5.9	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 1.1	2.3	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 3.2
10	1月	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 0.8	1.4	0.4	0.2	4.4
	2月	▲ 0.7	▲ 1.0	0.2	▲ 0.9	3.0	0.6	0.0	11.4
	3月	1.0	▲ 0.2	0.2	▲ 0.1	0.8	3.3	2.5	14.5
	4月	1.6	▲ 0.2	0.1	▲ 0.6	1.9	1.6	0.8	11.9
	5月	0.1	▲ 0.1	0.4	▲ 0.3	2.0	1.3	0.7	10.4
	6月	1.8	▲ 0.2	0.2	▲ 0.4	2.0	0.8	0.2	10.2
	7月	1.4	▲ 0.3	0.5	▲ 0.4	2.7	0.1	▲ 0.6	11.1
	8月	0.0	▲ 0.1	0.5	▲ 0.3	2.4	1.9	1.5	8.9

（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

## ○8月の現金給与総額は前年比0.0%

8月の一人当たり現金給与総額（名目賃金）は前年比0.0%と前月から悪化した。ただ、今月の悪化は特別給与の振れが全体を押し下げた面が大きい。給与の大半を含む所定内給与の減少幅は縮小しつつあることなどから、09年春以降の景気回復がラグを伴って波及することで、所得環境の持ち直し傾向は続いていると言えよう。

内訳を見ると、所定外給与は前年比+10.8%と8ヶ月連続での増加となった。製造業を中心に所定外労働時間の増加が続いている。また、賃金の大半を占める所定内給与も同▲0.1%と減少幅が縮小した。持ち直しのペースは緩やかではあるが、景気回復が波及することで回復が続いている。以上より所定内給与と所定外給与を合わせた定期給与は同+0.5%と6ヶ月連続での増加となった。

他方、今月は特別給与が同▲10.7%と減少し、全体を押し下げた。ただ、この結果を過度に悲観的に捉える必要はないだろう。ボーナスの支給は6、7月に行われることが多く、8月に支給される企業は少ない。そのため、前年に8月支給であった企業が今年は7月に前倒し支給するといったサンプル要因によって結果が振れやすくなる。①8月よりも支給割合の大きい6月、7月がそれぞれ同+4.1%、同+3.8%と増加していること、②6-8月平均の対前年比も+3.1%と増加していることなどから、夏季賞与全体では増加して

いると考えるのが自然だろう。昨年度末の業績回復が波及する形で、10年度夏季賞与は全体としてもプラスとなっていると思われる。

### ○賃金は持ち直しが続くも、本格的な回復は見込みがたい

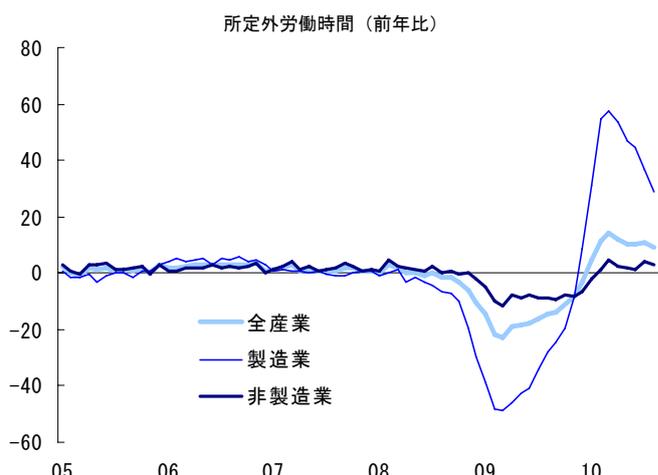
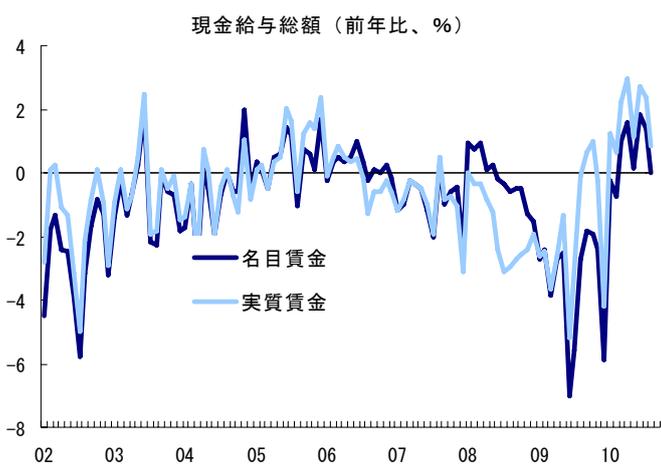
先行きについて、ボーナスは夏冬を同時に決定する企業も多く、冬季ボーナスも夏季ボーナス同様に増加する公算が大きい。所定外給与についても、伸びは鈍化するものの増加が続くと考えられ、賃金の持ち直しは続くだろう。

ただ、今後も賃金の大半を占める所定内給与の回復に大きな期待は抱きがたく、賃金全体として一段と回復ペースを強めていくような姿は想定しづらい。所定内給与が回復しづらい理由としては、①企業の雇用過剰感が強く労働需給の改善が進まないと予想されること、②企業の人件費削減意欲の強さから非正規雇用中心の採用が続くと予想されることなどが挙げられる。

### ○雇用者所得の持ち直しが続く

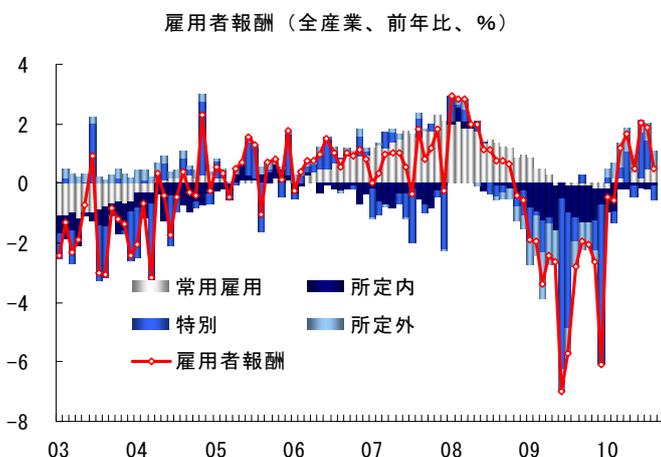
8月の常用雇用指数は前年比+0.5%と増加が続いた。内訳を見ると非正規雇用が中心ではあるが、8月の他の雇用関連統計が示す通り、緩やかながら雇用環境の回復が続いていることを示す結果と言えるだろう。

この結果、マクロ経済全体の雇用者所得（一人当たり賃金×雇用者数）は同+0.5%と6ヶ月連続の増加となった。個人消費の源泉となる雇用・所得環境は緩やかに持ち直している。足元および先行きの個人消費は特殊要因が多く基調が読みづらいが、こうしたファンダメンタルスを踏まえた上で、慎重に基調の判断を行っていく必要があるだろう。



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。